

世界の中学生〈アゼルバイジャン〉

●火の国、アゼルバイジャン

カスピ海西岸にあり、コーカサス地方の南東部に位置する国家。北部にはコーカサス山脈が連なり、国土の半分以上が山岳地帯で自然豊かである。日本の約4分の1の8万6,600km²の面積に、人口約1,050万人（2024年 国連人口基金）が暮らす。

首都はアゼルバイジャン最大の都市バクー。港町であるバクーは常に強風が吹いていて、「風の街」という意味のペルシャ語“bād-kūbe”（バード・クーベ）から、その都市名が名付けられたとの説がある。また、バクーには天然ガスが豊富に埋蔵されており、そのガスが砂漠などの地表から噴出して自然発火し、1950年代から燃え続けているヤナルダグは多くの観光客が訪れる。

●第二のドバイ

バクー近郊には世界初の油井があり、ペルシャ湾の油田が開発されていなかった20世紀初頭には世界の石油生産の半分がバクー油田に集中していたとされる。その莫大なオイルマネーによって急速に経済発展したアゼルバイジャンでは、インフラ整備や都市開発が一気に進んだ。

現在、首都バクーには奇抜な巨大建造物が立ち並び、夜になると街中がライトアップされ、その独特な景観から「第二のドバイ」と称されているほどだ。2028年頃には、高さ829.8mの世界一の高層建造物であるドバイの「ブルジュ・ハリファ」をしのぐ、高さ1050mの「アゼルバイジャンタワー」が開業予定である。

ただし、現在のアゼルバイジャンの石油生産量は減少傾向にあり、非石油産業への転換が急務だ。

●中学校生活

小学校から高校までの一貫教育を実施している。公立校は、入学金や授業料、教科書や制服が

すべて無料。ソビエト連邦下にあったことから、アゼルバイジャン語で話す家族とロシア語で話す家族があり、入学時にはどちらの言語で習うかを選ぶ。

授業は教科書を使うことが多い。私立では、タブレットを教科書代わりに使う学校もあるが、タブレットは個人で準備している。国から学校にパソコンの提供はあるが、生徒一人ひとりへの貸し出しはない。

中学校自体にクラブ活動はなく、個人でチェスやアートを習っている子が多い。男の子では、柔道や空手、合気道などの武術を習っている子も多い。

バクーでは毎年11～14歳を対象にOlympiadsという学校対抗のクイズバトルが開催され、上位に進むとテレビでも放送される。

●生徒主体のチャリティー活動

ほとんどの学校でチャリティー活動が活発に行われている。特筆すべきは、学校から声かけがあるのではなく、生徒たちが自発的に声をかけ合ってクラス単位で行うことだ。生徒たちは何のために、どのようなチャリティーを行うかを主体的に決めて準備する。他のクラスの生徒にも声をかけて合同で行うことも多い。

生徒たちは、各自で準備できる範囲で、衣類、本、食料、お金などを持ち寄り、孤児院や病院、養護施設、戦場の軍人たちへ送る。バクー在住の中学2年生、アリエヴァ・ニガール(Aliyeva Nigar)さんもその1人。

ハンドメイドのアクセサリーやお菓子などを学校内外で販売し、その売上金を寄付に充てる。



世界の中学生〈アメリカ・オレゴン州ポートランド〉

●大国アメリカ

首都ワシントンD.C.(コロンビア特別自治区)と北アメリカ大陸にある48州、そしてアラスカ州とハワイ州を含む50州から構成されるアメリカ合衆国。面積は983万3,517km²で日本の約26倍もある。人口は約3億3,650万人(2024年6月 米統計局推計)で世界第3位。

●America と the United States

アメリカの正式名称 the United States of America を日本では「米国」や「アメリカ」と呼ぶが、アメリカでは一般的に the United States と呼ぶ。他にも the U.S.と略したり、the States と言ったりすることもある。America と呼ばないのは、1492年にコロンブスが「南北アメリカ大陸全体」を発見した時に、America と名付け、北米と南米の両方を意味するため、紛らわしいからである。また、近年、ドナルド・トランプ(第45・47代大統領)が大統領就任演説の中で America First(米国第一)という言葉を使用したり、Buy American と言って米国製品を買うよう求めたりするように、America / American という言葉には「アメリカ合衆国」への愛国的響きが強いの。

●農業大国

世界有数の農業大国で、トウモロコシ、小麦、大豆などを多く生産し、他にも牛乳やチーズ、牛肉や鶏肉などの畜産業も盛んである。トウモロコシと大豆はそれぞれ世界第1位と第2位の生産量を誇り、トウモロコシは世界全体の生産量の約3割弱を占めている。

●中学校生活

オレゴン州ポートランド在住の中学1年生アリサ・ヒガシ・マーカル (Alissa Higashi Marcal) さんの通う中学校は、制服がなく



生徒の個性を尊重する。「〇年〇組」という概念がないため、生徒は授業ごとに教室を移動する。同じ学年でも生徒ごとに複数の選択授業があるため、スケジュールは皆ばらばらである。

授業は、バンド、コーラス、ジャーナリズム、クリエイティブライティング&マルチメディア、環境科学&エンジニアリング、Advancement Via Individual Determination (高校で成功するためのスキルを学ぶクラス)など、日本の中学校にはないものもある。

また、SDGsへの取り組みも盛んで、理科の授業でゴミを使ったプロジェクトを行い、校外学習では気候変動やコミュニティ構築などについて学ぶ。クラブ活動でも、フェミニズムクラブやノー・プレイス・フォー・ヘイト・クラブ(差別撲滅クラブ)、Genders & Sexualities Alliances(LGBTQ+クラブ)など、SDGsに関連したものがある。

他にも、人種別の生徒クラブやレゴ・ロボティックス(レゴを使ったロボットプログラミング)、チェスクラブなどの興味深いクラブが存在する。定番のアメリカンフットボール、ラクロス、バレーボール、陸上などは、市立高校の同学区内の複数の中学校の合同チームとして活動する。

世界の中学生〈インドネシア〉

●世界最大の島嶼^{とうしょ}国家

東南アジア南部に位置するインドネシアは、スマトラ、ジャワ、カリマンタン、スラウェシ、ニューギニアの主要5島と中規模な群島を含めた約17,000以上の島からなる世界最大の島嶼国家だ。このうち、約9,000の島々に約2.79億人（2023年 インドネシア政府統計）が暮らしている。国名のIndonesiaはギリシャ語のindos（東インドの）とnesos（島々）に由来する。

首都はジャワ島にあるジャカルタ。人口1,133万人（2023年 ジャカルタ特別州住民登録局）が住む大都会で、政治・経済・文化の中心である。インドネシアではバスや電車の公共交通機関があまり発達していないため、車やバイクが人々の生活の足になっている。首都ジャカルタへの一極集中や交通渋滞緩和のため、2025年から20年以上かけて首都をカリマンタン島ヌサンタラへ移転する予定である。

●多種多様な民族

約1,300（ジャワ人、スンダ人、マドゥーラ人等マレー系、パプア人等メラネシア系、中華系、アラブ系、インド系等）の民族集団が多様な習慣・伝統文化・言語をもち、共に暮らしている。

公用語はインドネシア語だが、インドネシア各地では今でもその地域の言語（バタック語、スンダ語、ジャワ語、バリ語など）が使われており、その数は583種以上ある。よって宗教も多様で、人口の87%はイスラム教徒、キリスト教徒は10.4%（プロテスタント7.4%、カトリック3%）、ヒンズー教徒1.7%、仏教徒0.7%（2023年 宗教省統計）とされている。

●希少動物や植物の楽園

地球上の熱帯雨林のうち、約10%の森林がインドネシアに残されており、一帯には独特な熱帯植物が自生している。ラフレシアは花の直径が1m以上、重さ10kg以上の世界最大の植物で、赤色に白い斑点があり強烈な匂いを発する。

インドネシアでしか見ることができない希少動物も存在する。例えば、50万年も前からコモド島に生息しているといわれている大トカゲ（コモドドラゴン）や、カリマンタン島とスマトラ島にのみ生息するオランウータン、鼻の長いテングザル、わずか20cmのピグミーメガネザル、絶滅の危機に瀕しているスマトラトラやスマトラサイなどである。

●インドネシアの中学校生活

義務教育は7～16歳までの9年間で、コーランの内容を暗記して発表するなど、イスラム教の授業がある学校が多い。校内にモスクがあり、生徒も礼拝を行う。1日5回あるお祈りのうち、学校で過ごす時間帯にかかるお祈りはそこで行われる。また、断食月には体育の授業は休止し、短縮授業となり通常より早く帰宅することができる。

給食はなく、お昼は学校のキャンティーンで食べる。メニューは一般的なインドネシア料理で、バツソ（肉団子のスープ）、シオメイ（インドネシア風シューマイ）、バタゴル（魚の揚げ餃子ピーナツソースがけ）などから選べる。

子どもたちは校外で、伝統舞踊、歌、フットサル、サッカー、バドミントン、テコンドー、空手など、さまざまな習い事をしている。特にバドミントンは、競技人口の多い国民的スポーツだ。

世界の中学生〈エストニア〉

●バルト三国最北の国

ヨーロッパ北東部に位置するエストニア。バルト海を挟んだ北はフィンランド、東はロシア、南はラトビアと接する。エストニア、ラトビア、リトアニアは、バルト海に面した国という地理的共通性からバルト三国と称される。

エストニアはバルト三国の中でもっとも北に位置する国で、面積は約 4.5 万 km² で日本の約 9 分の 1、人口は約 136.5 万人(2023 年 1 月 エストニア統計庁)。13 世紀以降、デンマーク、ドイツ、スウェーデン、ロシアにより占領されたが、1918 年にエストニア共和国として独立を宣言した。首都はタリンで、人口は約 45 万人(2023 年 1 月 エストニア統計庁)。保存状態のよい歴史的建造物が多く残る旧市街地は「タリン歴史地区」として、1997 年から世界遺産に指定されている。なお、日本で有名なエストニア人は、元大相撲力士の把瑠都凱斗（バルト・カイト）。

●電子政府国家

2024 年現在、行政サービスの 99%がオンラインで提供され、いつ・だれが・何の目的でデジタルサービスにアクセスできたのかを、誰もがログから確認することが可能だ。また、2002 年からは、日本のマイナンバーカードのような電子 ID の取得が義務付けられ、国民にメリットの大きい 3000 以上のサービスが提供されている。

学校でも 20 年以上前からコンピュータが導入され、子どもたちはゲームなどを通じて遊びながら自然と操作を覚えてきた。また、子どもたちが IT を使いこなせるようになるために、政府は学校のカリキュラムに技術的なニーズを組み込むことを推進してきた（参照：人事院月報 2023 年 3 月号）。

●中学校生活

義務教育は小学校と中学校の 9 年間。大都市タリンやタルトなどでは、小学校、中学校、高校までが同じ敷地内にあり、教師は同じ学校内のどの学年でも教えられるため、何年も同じ教師に教わることもある。

新学期は、6 月半ば～8 月末までの約 3 ヶ月間の夏休みの後、9 月 1 日から始まる。新学期の初日にはお世話になる教師に花を持っていく慣習がある。その他、春休みと秋休みが 1 週間ずつ、冬休みが 2 週間ほどある。読書に力を入れているため、夏休みの課題は出ないことが多い。

教室にはプロジェクター、スマート（電子）ボード、デジタルホワイトボードのいずれかがあり、生徒はデジタル教科書を使って授業を受けたり、宿題を提出したりする。ノートパソコンを持っていない家庭には、政府からの寄付により、学校からノートパソコンやタブレットが提供される。また、最近では多くの学校で VR が導入され、生物や化学、英語、エストニア語（国語）、歴史の授業で使われている。

放課後は、校内でのスポーツや音楽などのクラブ活動に参加するほか、学外のクラブや教師に習いに行くこともある。タリン在住の中学 2 年生、ヨーセップ・タンメス（Joosep Tammes）さんは、ロボティクス（レゴでロボットを作り、さまざまな科学的問題をプログラミングによって解決するレッスン）、タイボクシング、ギターを習い、ジムに通っている。



世界の中学生〈オーストラリア〉

●首都キャンベラ

正式名称はオーストラリア連邦。人口は約2,626万人（2022年12月 外務省）、面積は約769万2,024km²（日本の約20倍）。

人口最大の都市であるシドニーや第2位のメルボルンが有名だが、首都はシドニーから南西280km離れた場所にあるキャンベラだ。政治経済の中心地であり最大の観光地である2大都市のシドニーとメルボルンではなく、なぜキャンベラが首都なのか。

オーストラリアは連邦制を採用しており、州ごとに議会がある。1901年のオーストラリア独立時に、ニューサウスウェールズ州の州都シドニーとビクトリア州の州都メルボルンの間で、首都の座をめぐる論争があったが、なかなか結論に至らなかった。そのため、妥協案として、連邦政府の中立性維持と、シドニーとメルボルンの中間に位置する地理的理由から、キャンベラが首都として採用されたのである。市内には広大な自然の中に整備された湖や公園、The Lodge（ザ・ロッジ）と呼ばれる首相公邸、政府機関や文化施設、100を超える大使館などがある。

●多民族主義国家

人種も文化も言語も異なる人々が暮らしているオーストラリアは、1つの社会の中で、人々が複数の文化が入り混じることを認識し、積極的に共存していこうとする多文化主義国家でもある。19世紀にサウスウェールズ州で起こったゴールドラッシュの際に、世界各国から外国人が入国し、さまざまな国や人種の人々が移民として住むようになった。その後1970年代に政府は、オーストラリア先住民、白人移民、その他の移民すべてが平等であると取り決め、多文化主

義が始まったとされる。

●中学校生活

人口第3位（約271万人 2023年時点）の都市ブリスベンに住むアラベラ・ライアン（Arabella Ryan）さんは中学2年生。



オーストラリアの学校は公立・私立とも、基本的には中高一貫である（場合によっては小学校も）。学校には全学年の全生徒が所属する「ハウス」が存在する。スポーツカーニバル（運動会）、スイミングカーニバル（水泳大会）、合唱コンクール、チェス大会などの学校行事では、クラスごとの縦割りではなくハウスごとの縦割りで得点を競う。

ベラさんの通う中学校では、1人1台のICTデバイスを使うことが推奨されており、英語（国語）、数学、理科、社会などの教科で使用される。

「外国語」の授業は主に、中国語、日本語、フランス語、ドイツ語など複数の中から選択が可能。また、地方では、「技術・家庭」の授業で将来農家になることを想定した授業がある。

給食はなく、家から弁当を持参するか、キャンティーン（購買部）で当日の朝までに予約して買う。「モーニングティー」「リトルランチ」と呼ばれる朝のおやつの時間と、「ランチ」「ビッグランチ」と呼ばれる昼食の時間があるので2回分の食事を持って行く。持参する弁当はハムとチーズのサンドウィッチや、リンゴやバナナなどのフルーツ、スナックやカップ入りヨーグルト、パック入りジュースなど簡単なもので、生徒の多くは自分たちで用意する。

世界の中学生〈グアム〉

●日本から一番近いアメリカ

日本から飛行機の直行便で3~4時間ほどで到着するグアム。時差も1時間しかない。太平洋にあるマリアナ諸島南西端に位置する海底火山によって形成された島だ。面積は約549km²、人口は約17万人。アメリカの領土でありながら、「自治的未編入領域」と言われ、アメリカ合衆国憲法の適用は一部のみで、当該地域の自治法が制定されている。なお、グアムの住民には大統領および連邦議会議員選挙の参政権はない。

人種はグアム先住民のチャモロ人が47%、フィリピン人25%、アジア及びグアム以外の太平洋諸島出身者10%となっている。公用語は英語とチャモロ語だが、フィリピン系も多いため、タガログ語も使われている。

気候は年間を通じて高温多湿の「常夏」で、一年中マリンスポーツが楽しめる。年間平均気温は27℃。1月~5月までが乾季、6月~12月までが雨季。雨季には南国特有のスコールが降る。

●中学校生活

新学期は8月（学校によっては9月）から始まり、5月に卒業式がある。入学式や始業式はない。日本と同じ3学期制で、春休み（9日間）、夏休み（67日間）、冬休み（16日間）がある。12歳以下（中学1~2年生）の場合、保護者なしでの外出は法に触れるため、休み中の行動は限られる。

生徒は通常8時に登校し、15時~15時半に下校する。3回遅刻すると欠席扱いになるなど、出欠管理が厳しい。

昼休みは45分。校内のカフェテリアなどで朝の-snackとランチを食べる。自宅や外の店からランチを持ってくる生徒もいれば、校内で食

事・軽食・飲み物を購入する生徒もいる。校内であればどこで誰と食べてもよく、教師と生徒と一緒に食べることもある。学食のメニューは、ホットドッグやフライドポテト、ミートボールなどのアメリカ料理の他、チキンチャラキリ（シチューのようなもの）やレッドライス（チャモロの赤いご飯）といったチャモロ料理も提供される。

●アクティブラーニング

自分が発言したり人の意見を聞いたりしながら、クラス全員で物事を考えるディスカッション形式の授業と、調べた内容を自分なりに考えてまとめ上げるブックレポート、エッセイの発表を行うプレゼンテーションの授業が大半を占める。中学校高学年から関数を習う学校が多いため、電卓を使って数学の問題を解くことが許可されている。

テストは授業の理解力に対する考えを問うものが多い。また、オープンブックといって本や自分のノートを持ち込むことが許可されているものがある。

スポーツは、バスケットボール、バレーボール、サッカー、クロスカントリー、ランニングなどの活動がある。島内の複数のリーグに所属して公立・私立校と競技する。



中学1年生のカーستن・ティファニー・クルズ（Kiersten Tiffany Cruz）さんが所属するバレーボールチームは今年リーグ優勝を果たした。

世界の中学生〈トルコ〉

●ヨーロッパとアジアが交差する国

トルコ共和国は、日本の約2倍の面積（78万576km²）に、85,279,553人が住む（2022年 トルコ国家統計庁）。古代から東ヨーロッパと西アジアをつなぐ架け橋として存在し、様々な民族・文明が栄え、独特のエキゾチックな文化をもつ。経済・金融の中心であるイスタンブールはトルコ最大の都市だが、首都はアンカラである。

民族はトルコ人がほとんどで、南東部を中心にクルド人、アルメニア人、ギリシャ人、ユダヤ人などが暮らしている。公用語はトルコ語で、宗教はイスラム教（スンニ派、アレヴィー派）が大部分を占め、その他、ギリシャ正教徒、アルメニア正教徒、ユダヤ教徒など。（参照：外務省基礎データ）

●古代遺産の宝庫

トルコには、21カ所の遺跡が世界遺産として登録されている。イスタンブールにあるビザンチン建築のモスク、アヤソフィア寺院やオスマン帝国時代の歴代スルタン（王）の居城、トプカプ宮殿をはじめ、火山の噴火により堆積した凝灰岩・溶岩層が長い年月をかけて浸食されてできたカッパドキアの奇岩群や、ホメロスの長編叙事詩『イーリアス』に登場する古代都市トロイの遺跡などだ。その他、無形文化遺産には30もの芸能や伝統工芸技術などがあり、その数は世界第2位を誇る。

●世界三大料理

フランス料理、中華料理と並び、世界三大料理の1つトルコ料理。宗教上、豚肉は食べられないが、牛や鶏、羊はよく食べられる。日本でもなじみがあるのは「ドネル・ケバブ」。じっくりロ

ーストした羊や牛の塊肉を削ぎ切りにし、パンに挟むなどして食べる。また、肉や野菜を串刺しにしてローストした「シシ・ケバブ」も屋台などで人気だ。

他には、パンに野菜と焼いたサバを挟み、レモン汁をかけて食べる「サバサンド」（バルック・エクメック）や、伸びるアイスの「ドンドゥルマ」も有名。

●トルコの中学校生活

義務教育は6～17歳までの12年間で、学校制度は4-4-4制をとっている。公立学校は全て無償。カリキュラムの開発から評価方法の枠組み決定まで、すべて政府中央機関が決定している。9月から新学期が始まる2学期制。不登校の子どもであっても常に質の高い教育が受けられるよう、オンライン専門のクラスがある。

また、教職は弁護士や医師と並ぶ神聖な職とされている。そのため、子どもと保護者が教師の誕生日会を企画して行ったり、誕生日や卒業式などでは教師へプレゼントを贈ったりする。

カッパドキアに住む中学1年生のエリフ・セルハット（Elif Serhat）さんはイスラム教徒。学校ではイスラム教を学ぶ授業もある。

お弁当の習慣はなくカフェテリアで食べる。イスラム教国のため豚肉を使ったメニューはない。ここでもケバブランチが人気だ。

